

「よのなか!」をアナラシス みんな、ちゃんと考えよう!

■ 年末のご挨拶

昨年末に、「“生きている”と“生きていく”」という清水博先生の言葉を引用させていただきました。

この言葉は、ずいぶん反響をいただきました。

そして、「私も“生きていく”を意識します……と言っていたことが多かったのですが、どうも浅学な捉え方をされている……というシーンにたくさん遭遇しました。

そこで、まずは確認しておきます。

“生きていく”は、ただ行動することではありません。“考え抜いた上での行動”です。

例えば……。

ある方が、「今年は、“生きていく”を意識するぞー」と考える。そして、売上げの拡大を思い付く。

ある方が、「今年は、“生きていく”を意識するぞー」と考える。そして、ある懸案に手を付けることを思い付く。

ここまでは、いいのですが、そこからが稚拙では、むしろ害悪です。

例えば……。

売上げの拡大を思いつく。そして、広告宣伝費を大きく計上する……。

ある懸案に手を付けることを思いつく。そして、すぐに交渉に乗り出す……。

簡単に言うと、前段階が大量に省略されたまま、コトが行われる。または、行われようとしてしまうわけです。

こうやって整理して話を展開していくと、あり得ないようなお話なのですが、今年のはじめには、こんなことが、そこら中で勃発してしまったのです。

んー、困った。私のせいです……。

■ 再々度、「分かっている」について

では、どうしたらいいのか……？

という質問は、あり得ないですよ。
もはや、誰もが十分に分かっているはずですよ。

それでも、あえて言い切っちゃえば、月並みな言葉になります。
「みんな、ちゃんと考えようよ！」

しかし、こんなことは“知識”では誰でも分かっています。
そして、「分かっているよ！」って反応がきてしまいます。

この件について、以前、メールマガジン『週刊 岡本吏郎』第699号
(2018年12月18日配信)でご紹介した質問をネタに少し書きます。

質問の一部を引用します。

映画『ボヘミアン・ラプソディ』の評価の違いに対して、質問者が次のように言っています。

……

要は、両者の違いは、

「この作品がどれだけ“あの頃”を忠実に再現しているか」
を判断基準に持ち込んだか否かというあたりにあるようです。

しかし、本当に“かつてのあの頃”を忠実に描いているかどうかは作品の良し悪しを決めるものなのでしょうか？

「いい映画」って、そんな再現性の忠実さで決まるものなのでしょうか？

「いい映画」って、予備知識なしで誰が観ても楽しめる映画のことを言うのではないのでしょうか？

……

この質問は、実に、質問者の心が透けて見えます。

「“いい映画”って、予備知識なしで誰が観ても楽しめる映画のことを言うのではないのでしょうか？」の部分です。

この部分、誰もがよく使う「分かっているよ！」と一緒にです。

この質問は一つの宣言です。

「私は、もうこれ以上の知識を必要としません。だって、十分楽しいですから」

つまり、この質問者は、これ以上「鑑賞能力」が伸びることのない人です。

映画『ボヘミアン・ラプソディ』は、ただのエンタメですから、目くじらを立てて、こういうことを言う必要もないのですが、一事が万事です。この質問者の基本的態度は、どんな場合もそんなに変わらないはずです。

そして、私のような者に

「みんな、ちゃんと考えようよ！」

と言われ、

「分かっているよ！」

と答える人も、一事が万事です。

こう言い切る人は、“ちゃんと考える”ということが何も分かっていない人です。

■ あらためまして、“生きていく”とは

そういう人に対して、前進する人は違います。

私のような者に

「みんな、ちゃんと考えようよ！」

と言われたら、

「どこが、大ざっぱなのか教えて！」

と答えるはずです。

そして、具体的な方法を考えることになるのは当然です。

質問が、このレベルからはじまると、質問者はもだえ苦しむことになりませんが、問題解決率は飛躍的に高くなります。

つまり、飛躍的な行動を取る人は、もだえ苦しむたくない。言葉を変えると、楽をしたい。毎度言っている「問題解決したい。でも、楽したい」というトレードオフの呪縛に引っ掛かっているというわけです。

ノロノロとつまらないことを書いてきましたが、結論です。

「“生きていく”とは、楽ではない」

そして、

「“生きていく”には、我慢が必要だ」

さらに、

「“生きていく”には、ビジョンが必要だ」

まずは、ビジョン作りから。

そうしないと、単なる“多動”で終わってしまいます。

ちなみに、ビジョン作りは難しいです。
ビジョンは、単なる夢とか思い付きではありません。
ですから、必ず“裏付け”が必要です。
もちろん、足りない“裏付け”もあるでしょう。
そういうものは、埋めていけばいいだけです。
そして、おそらく、その埋めていく行為を“生きていく”というのかもしれない。

神は、実に巧妙に、この世のおきてを作ったものです……。

「人間は、脆弱な葦が考えるように、まさしくその様に考えなければならぬ。これがパスカルの言葉の真意である」

(小林 秀雄)

「呻きながら求める人しか自分は認めない」

(パスカル)